

2023年6月15日  
医療法人博寿会  
沖縄電力株式会社  
沖縄新エネ開発株式会社

## 【県内医療機関初】医療法人博寿会における 第三者所有モデルを活用した太陽光発電システムの運用開始について ～脱炭素社会に向けた医療法人の新たな取り組み～

この度、医療法人博寿会もとぶ記念病院、介護老人保健施設もとぶふくぎの里（理事長：高石利博、以下博寿会※1）において、沖縄電力グループの沖縄新エネ開発株式会社（代表取締役社長：嘉味田朝紀）が手掛ける「第三者所有モデルを活用した太陽光発電システム（以下、かりーるーふ）※2」の運用を開始しました。

博寿会は、自然豊かな観光文化のまち本部町で、地域に根差した医療を提供しており、同会が運営する施設に太陽光発電設備（145kW）を設置することで、同会で使用する年間使用電力量の約27%が太陽光発電により供給されることになり、年間約196t（杉の木約2万2千本分）のCO2削減に貢献します。

さらに、台風等の災害による停電時は、太陽光発電設備から蓄電池（13.5kWh）に充電された電力を食堂に供給することにより、IHジャーやスープジャーなどが利用できるよう、入所者へ温かい非常食の提供が可能となります。また、通信機器の利用や充電に活用することで安心・安全な医療施設としての機能強化を図ります。

これは、沖縄電力が掲げるコーポレートスローガン「地域とともに、地域のために」に資する取り組み、および沖縄電力グループが目指す「2050年CO2排出ネットゼロ」実現に向けた方向性の一つである「再エネ主力化」を一層推進する取り組みにも繋がります。

なお、沖縄県内医療機関におけるかりーるーふの運用は、博寿会が第一号となります。

3者は、本サービスの導入を通して、今後も沖縄県の持続可能な社会づくりに向けた取り組みを推進してまいります。

※1「医療法人博寿会」は、あらゆる心の問題に専門的に取り組んでおり、精神科訪問看護においては、沖縄本島北部の広い範囲で在宅医療をサポート。伊江島へは週2回の訪問を実施。

※2「かりーるーふ」は、太陽光発電設備と蓄電池を初期投資ゼロで設置し、発電した電気をお客さまに販売するサービス。ご検討から導入、メンテ、撤去まで沖縄新エネ開発がワンストップで対応。

もとぶ記念病院



介護老人保健施設  
もとぶふくぎの里

